

＜テーマの設定理由＞

夏の期間、園庭で泥遊びや水遊びを思い切り楽しんだ。  
秋になり、戸外へ散歩に出かけることが多かったが砂水での遊びがどのように広がるか、また、園庭遊びの際は、他学年(0、1、2歳児)と一緒にことが多いが、3歳児のみでじっくり砂遊びをする機会を作りたいかった。  
砂が増えたことで、子どもたちがどう遊びを広げていくか見てみたいと思った。

園名：社会福祉法人たつの子の会  
羽村しらうめ保育園  
活動日時：令和6年12月17日  
午前中  
クラス名：こじか組（3歳児クラス）  
年間テーマ：砂水遊び

＜活動スケジュール＞

1年を通して砂水遊びを継続的に取り組んでいる。  
この日は午前中3歳クラスのための空間・時間で道具を使いながら砂水遊びを行う。

＜活動のために準備した素材や道具＞

砂・水・スコップ・バケツ・板 等

＜環境をデザインする・探求活動の実践＞

園庭へ出ると、数人が「スコップ使いたい!」と言う。  
スコップで友だちと向かい合い、穴を掘ってトンネルを作り始める。  
途中から手で掘り進める。「繋がった!」の声に、数人が手を止めてトンネルの場所に集まった。



「川にしよう!」と水を持ってきて流す子がいた。水がトンネルを通り橋の下まで来ると、「おお〜!」と歓声が上がった。  
大人が丸太を持ってきて橋を架けると、橋から水の行方を見守る子もいる。繰り返し水を入れる子、トンネルの穴がふさがると掘ってまた繋げる子、崩れそうになると泥を積んで固めようとする子、溜まった水に浮かぶ泡を集める子…など、やっていることはそれぞれだが、「こうしようよ」「待って!こうしたら?」「私はこうするね!」など声を掛けながら遊んでいた。  
何度も水を入れ、周りの土がえぐれて溝ができたり、深い穴になっていくのを楽しみながら、穴を広げては水を入れ…と繰り返し楽しんでいる様子が見られた。



＜振り返り＞

- ・他学年（0、1、2歳児）と一緒に園庭を使用する際は、人の多さや危険を加味してスコップを出さないこともある。  
3歳児のみで思いきりスコップを使える良さがあった。
- ・対面で掘るなど、1人ではなく“トンネルを作る”というイメージを共有しながら一緒に遊ぶ姿があり、自分だけの世界から、一緒に遊ぶ楽しさや嬉しさを感じられるようになってきている。
- ・楽しそうな遊びがあると、そこに数人が集まり、群れて遊び始めるのが3歳児らしい姿だと思った。  
一緒に遊んでいるようで、楽しんでいることはそれぞれな姿がある。しかし声を掛け合い遊びが繋がる場面も見られ、個々と小集団と行ったり来たりしながら遊ぶことで、まず個々の充実がありそこから友達同士の遊びへと発展していくのを感じた。
- ・トンネルづくり～崩れるまで、30分に満たない時間だった。1人ひとり集中して遊んでいたが、スッと遊びが収束したのは、それぞれが満足し“やり切った感”があったからではないか。  
1つの遊びの中で、大人が引っ張りすぎず、子どもたちが遊びの中の“どこ”に興味関心があるのかを見守っていったことで、個々の育ちや、周りとの繋がりが見えた。そういう機会を生活や遊びの中で大切にしていきたい。
- ・砂の量は多かったが、比較的凹凸のない所から遊びが始まった。大人が大きな山を作るなど工夫すると、大きなトンネルを掘る子がいるなど違った姿も出てくるかもしれない。大人のきっかけ作りも色々と工夫してみる。